

## ボランティア活動センターこくぶんじ訪問記録

【訪問日時】10月3日(土)10:00~11:40

【ご対応いただいた方】まちづくり支援係係長、地域福祉コーディネーター2名

【内容】

### ■ ボランティア活動センターの位置づけ

- ・組織の関係は、国分寺市社会福祉協議会
  - まちづくり支援係→ボランティア活動センター事業担当（ボランティア活動センター）
  - まちづくり支援担当（地域福祉コーディネーター）
- ・市が設置している市民活動センターとの住み分けは、ボランティア活動センターは福祉。市は市民活動の支援。

### ■ ボランティア活動センターの活動

- ・高齢者、障害者、児童など、幅広い範囲の支援をしている。
- ・子供の登下校の見守り支援。
- ・東京経済大学、武蔵野美術大学との関わりあり。過去にイベントのポスターを美大生にデザインしてもらった。
- ・中学生を対象に「国分寺を考える」というテーマでワークショップを行っている。過去にはクラウドファンディングで国分寺を再建するといったアイデアも出てきた。（今年度はオンラインで3月に実施予定）

### ■ 地域福祉コーディネーター

- ・地域福祉コーディネーター2名配置。東区域と西区域に分担。（市・委託事業）
- ・ゴミ屋敷など制度の狭間のニーズにも対応している。
- ・空き家を使った居場所づくりを検討。

### ■ 国分寺市のコミュニティ、活動

- ・「ぶんぶんウォーク」など頑張っている（今年はコロナ禍のため、「ぶんさんウォーク」）。
- ・6小、10小のお父さんによる「父ちゃん会」
- ・中村農園が赤坂でこくベジのお店を展開（東京農村）

### ■ 社協職員から見た国分寺市の課題

- ・街づくりに関心ある人、団体は沢山存在する。つなげる人がいない。
- ・行政からの情報が入ってこない。
- ・何かやろうとしても市がボトルネックになることが多い。特に個人情報に厳しい。
- ・40代、50代を活動に巻き込みたいと考えているが・・・
- ・サービスの受け手も提供側も「福祉は無償」という固定観念が強い。有償のイベントや対価を払うという

ことに抵抗がある。有償にしたときに「前例との住み分けをどうするか？」という議論になりがち。

- ・関係者で「あれやりたい、これいいね」みたいに盛り上がってもその場だけで実現に至らない。
- ・PRや伝え方がアナログ。ホームページの使い勝手を良くしたり、YouTubeなどのツールを活用することを検討している。
- ・地域福祉コーディネーター自信がFacebookなどのSNSのしくみを理解していない。得体が知れない不安を感じる。

#### ■ 10年後の国分寺はどうあって欲しい？

- ・O氏) 思い出に残るイベントにあふれる街。イベントが減っている。ハッピーマンデーで祝日の意味も薄れている。
- ・K氏) 多機能な居場所が点在する街。→新しいファミリーのカタチ。

#### ■ 市民のデジタル環境について

- ・WEB環境に関するアンケートでは、ほとんどの方が「できる」「教えてもらえばできる」と回答。
- ・孫とLINEでコミュニケーションしている高齢者も多い。